

科目名	教員名
演習（人間開発学部）	町田 樹（まちだ たつき） 助教（後期着任）

開講キャンパス	開講時期	曜日時限	単位数
たまプラーザ	2020 後期	火曜 5 限	2

講義授業	
授業のテーマ	スポーツ&アートを通じて繋がる社会
授業の内容	<p>【演習内容】 本演習では、「スポーツ&アートと社会」をテーマに、自由で幅広い人文社会学系研究に取り組むことができる。なお、本演習で取り組むことができる研究テーマの具体例は、以下の通りである。</p> <p>スポーツ or アートと経済 / スポーツ or アーツマネジメント / スポーツ or アートと政策 / スポーツ or アートと法律 / スポーツ or アートとメディア / スポーツ or アートとアーカイブ / スポーツ or アートと教育 / スポーツ施設 or 劇場のマネジメント論 / スポーツ or アートの消費者行動論 / スポーツ or アート産業論 / スポーツ or アートの都市論（まちづくり） / スポーツ or ダンスの歴史 / スポーツ or ダンスパフォーマンス批評 / スポーツ or 舞踊の美学 など</p> <p>もちろん、上記の例以外にも人文社会学系であれば、研究テーマを自由に設定することが可能である。</p> <p>【演習形式】 本演習は基本的に、以下の二通りの授業形式を採用する。</p> <p>①担当教員による講義の後、その内容について参加者全員で討議したり実践したりする授業形式 ②受講者が課題への取り組みについて発表し、その内容について参加者全員で討議する授業形式</p> <p>以上の通り、本演習は教員と受講者全員のインタラクションによって醸成されるものであるため、受講者一人一人には主体的かつ積極的な態度が求められる。 なお、以下の演習計画では、全 15 回それぞれがいずれの授業形式に該当するのかを記載している。</p>
到達目標	<p>「スポーツと社会」、もしくは「アートと社会」の関係の中に潜む問題点を自らの力で見つけ出す。そしてその問題点（リサーチクエスチョン）を、理論と実践の両観点から多角的に分析・考察することに加えて、導き出した結果・結論を他者に伝達するまでの総合的な能力を養っていく。本演習では、研究能力を開発することはもちろんのこと、それだけでなく、実社会で必要となる諸能力を鍛錬することも大事な目標としている。</p>

授業計画	
第 1 回	<p>オリエンテーション 演習内容の説明やゼミメンバーの自己紹介等を行う。 【授業形式①】</p>
第 2 回	<p>「研究」とは何か 研究をスタートさせる前に、研究理念・研究方法・研究倫理の基本を学ぶ。 【事後学修 30 分】 ⇒復習を推奨する。 【授業形式①】</p>
第 3 回	文献・情報探索術

	<p>研究を遂行するうえで必要となる文献や資料にアクセスするための情報探索術を学ぶ。</p> <p>【事後学修 30 分】 ⇒復習を推奨する。</p> <p>【授業形式①】</p>
第 4 回	<p>プレゼンテーション能力開発術 自らの研究を他者に伝達するうえで必要となるワード、エクセル、パワーポイント等のアプリケーション活用術を学ぶ。</p> <p>【事後学修 30 分】 ⇒復習を推奨する。</p> <p>【授業形式①】</p>
第 5 回	<p>「論文」とは何か 一つの論文を丹念に読み込み、論文の要素を解体したり、内容を深く解釈したり、問題点を検討したりすることを通じて、論文分析術を学ぶ。</p> <p>【事前学修 60 分】 ⇒指定された論文を事前に読む。</p> <p>【授業形式①】</p>
第 6 回	<p>論文作成術 前回の演習内容を踏まえ、論文の書き方を学ぶ。</p> <p>【事後学修 30 分】 ⇒復習を推奨する。</p> <p>【授業形式①】</p>
第 7 回	<p>論文分析およびプレゼンテーションⅠ 演習前半の内容を全て踏まえ、受講者それぞれが論文分析に取り組み、その内容を発表する。</p> <p>【事前学修 300～480 分】 ⇒課題に取り組み、発表準備を行う。</p> <p>【授業形式②】</p>
第 8 回	<p>論文分析およびプレゼンテーションⅡ 演習前半の内容を全て踏まえ、受講者それぞれが論文分析に取り組み、その内容を発表する。</p> <p>【事前学修 300～480 分】 ⇒課題に取り組み、発表準備を行う。</p> <p>【授業形式②】</p>
第 9 回	<p>論文分析およびプレゼンテーションⅢ 演習前半の内容を全て踏まえ、受講者それぞれが論文分析に取り組み、その内容を発表する。</p> <p>【事前学修 300～480 分】 ⇒課題に取り組み、発表準備を行う。</p> <p>【授業形式②】</p>
第 10 回	<p>研究調査技法Ⅰ〔文献研究入門編〕 研究調査スタイルの一つである「文献研究」の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【事後学修 30 分】 ⇒復習を推奨する。</p> <p>【授業形式①】</p>
第 11 回	<p>研究調査技法Ⅱ〔社会調査入門編〕 研究調査スタイルの一つである「社会調査」の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【事後学修 30 分】 ⇒復習を推奨する。</p> <p>【授業形式①】</p>
第 12 回	<p>研究調査技法Ⅲ〔統計分析法入門編〕 研究調査スタイルの一つである「統計分析法」の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【事前学修 60 分】</p>

	⇒質問紙（アンケート調査票）を作成する。 【授業形式①】
第13回	卒論研究構想発表Ⅰ 受講者が、来年度取り組むことになる卒業論文の研究テーマについて構想発表を行い、討議する。 【事前学修 300 分】 ⇒卒論テーマを構想し、発表準備を行う。 【授業形式②】
第14回	卒論研究構想発表Ⅱ 受講者が、来年度取り組むことになる卒業論文の研究テーマについて構想発表を行い、討議する。 【事前学修 300 分】 ⇒卒論テーマを構想し、発表準備を行う。 【授業形式②】
第15回	卒論研究構想発表Ⅲおよび総評 受講者が、来年度取り組むことになる卒業論文の研究テーマについて構想発表を行い、討議する。 【事前学修 300 分】 ⇒卒論テーマを構想し、発表準備を行う。 【授業形式②】
授業計画の説明	演習計画は上記の通りだが、ゼミ活動の進捗や状況に応じて、計画を変更する場合があります。なお、ゼミ合宿を行うか否かは、参加者の希望を伺い検討する。
授業時間外の学習方法	4年生で取り組むことになる卒業論文のプレ研究・調査期間であることを意識して、積極的に興味関心のあるテーマについて学習していくことを推奨する。
受講に関するアドバイス	①本演習に参加するうえで、予備知識は一切必要ないが、教員と受講者全員でインタラクティブに展開する演習形式であるため、やむを得ない場合以外は毎回の出席を求める。 ②部活やスポーツ活動でやむを得ず欠席しなければならない場合は、事前に担当教員に相談すること。

評価基準		
評価方法	割合	評価基準
平常点	100%	本演習に対する取り組みを総合的に考慮して評価する。具体的には、ゼミ活動（発表やディスカッション等）への積極性、課題の達成度、出席率などが評価対象となる。

注意事項	上記に色々基本方針を書きましたが、最も重視したいのは、興味関心のあるテーマを探究することの面白さと、その探究によって得られた知見を実社会の中で活かす術を学ぶことです。ですから、探究心と情熱がある人は誰でも歓迎します。共に充実した学びと探究の時間を堪能しましょう。
実務経験に関する記載	特になし。
履修登録制限・備考	特になし。

教科書・参考文献等	
教科書	
特になし。必要な場合は、適宜担当教員が配布する。	